

R4 年度長岡京市市民活動応援補助金 採択事業紹介シート(市民提案型)

⑧ 西山の森林文化を守る会 / 天神の森を市民が憩える場所作り事業

団体紹介

西山の森林文化を守る会と申します。

この団体は平成 30 年の 3 月に発足し、今年で 5 年目になります。本会は「西山の森林文化を守るに関する活動」を行うことにより西山の森林の維持管理に寄与することを目的とします。

活動内容

- 1, 西山の地域で親しまれている森林の保全活動
 - 2, 西山の歴史的遺産の社寺の森林の保全活動
 - 3, 森林の状況を伝えるためのワークショップ
 - 4, エシカルプロダクト生産
 - 5, 企業や有志の方が参画しやすいプラットフォーム作り
- 規模は小さいですが直接的にも間接的にも森林文化の保全活動を行っております。

活動のきっかけ

メンバー全員西山一帯の寺社や樹木に携わる機会が多く、昨今の自然災害、獣害被害により後世へ森林文化を継承する難しさに直面してきました。そのさなか 2018 年の台風 21 号が直撃してその被害を目の当たりにし、「防災から減災」を目指そうとして立ち上げたのがこの団体のきっかけです。

採択事業紹介

地域の課題：乙訓一帯の自然荒廃による憩いの場の減少

台風被害にあったところが処理されずそのまま放置されてる箇所が山中にいくつも増え、木が枯れて土砂が崩れていき、西山の環境が様々な要因を含んで荒れてきています。

また獣たちが里山に降りてきて農作物を荒らす被害も増えてきており、乙訓の森林の荒廃に不安を感じ先行きの心配をする人が増えてきています。この自然の脅威とコロナ等の感染症が相まって、地域住民同士顔を合わせてコミュニケーションできる場が失われてきているというのが私たちが感じる地域の課題です。

申請した事業内容：天神の森を市民が憩える場所作り事業

甚大な台風被害を受け、自然の脅威を見せつけられた身近なランドマークである長岡天満宮の森。自分たちは台風の被害にあったこの大木を伐採し処理をしましたが、未だに復旧の目途はたちません。自分たちの手弁当だけでは活動の維持が難しいので、捨てるはずの伐採木からアロマオイルを作り、そのプロダクトを販売して活動維持の財源にする循環の仕組みを作ろうと試みています。ですが財源になるまでオイルが売れるというのはまだまだ先の話。そこで、活動を大きくするために関係人口を増やす、そのためにまずは集まれる場所を作る。環境保全等地域の課題を住民同士で共有できる、また

はそれを解決するための知恵が集まるプラットフォームを憩いの場として設ける事が本事業の目標です。そのためには活動自体をより多くの方に知ってもらい、天神の森に憩いの場があるということをもっと知ってもらう必要があります。そこでうちのプロダクトである伐採木のアロマを使いワークショップをし、乙訓の自然環境の課題を共有し、天神の森に人々をまずは呼び込むことから始めます。

開催した結果や今後の予定など

実際に事業を終えて

結果で言うと、各回 10 名ずつの定員のイベントを計 2 回やって、トータル 22 名の参加がありました。そのうち男女別で言うと男性が 7 人に対して女性は 15 人とアロマというテーマだけにやはり女性の方が多かったです。年齢別の内訳で言うと 30~50 代が半数以上で 60 代以上も数名参加されていました。今回はアンケートではなく、コミュニケーションも兼ねて直接参加者達に話を伺いました。参加の動機で一番多かったのは、アロマと環境保全がどう関係していくのか聞きたかったというものでした。アロマに興味がある人は環境のことも興味があるという強引ですが、両方に興味を持つ方が参加者の中には多かったのもので、この二つのテーマは相性が良かったのかもしれません。ちなみに今回の参加者はアロマを使う職種の方が大半かと思いましたが、案外バラバラで、旅行のプランナーや地域活性の活動家、高校の先生や行政の方等様々な方の参加があったのには驚きました。知恵が集まるプラットフォームの兆しが少し見えたような気がします。

来年以降に活動をつなげるには

より多くの市民(特に 10~20 代世代)を巻き込めるようにワークショップだけでなく、買い物したり、そこで遊んだりすることで環境整備に貢献できるようこの憩いの場をよりエシカルにしていきたいと思います。人が集まれば参加費も下げることができ、もっと開催数を増やすこともできる。リピーターを増やすためにも続きものの企画を考えることも必要だと思った。

補助金の活用については

ワークショップの講師料である報償費が約 13 万、アロマやチラシデザインの委託料が約 14 万、その他会場の使用料等スタートアップに必要なところで約 27 万の補助金を頂きました。これを皮切りに自走していけるよう収益化できる仕組みを確立していきたいと思えます。

今回一番良かったのは

自分たちが作ろうとしてる循環の仕組みが参加者のみなさん全員にご賛同頂けたので活動の方向としては間違っていないことが確認できたのが何よりも良かったと思いました。